

2011年1月19日 北野 六稜会「日本人と英語」

あのTV西部劇「ローハイド」の主題歌“Rawhide”は、Franky Laineの素晴らしい歌唱力もあって一世を風靡しました。いまはYouTubeがありますから、いつでもネットで検索すればナツメロはタダでいながらにして聞けます。

さてこの主題歌の冒頭部分は、「ローレン、ローレン」と聞こえてきます。皆さんもそのように記憶されていると思いますが、原語は“Rollin' Rollin' Rollin'”です。語尾は本来の形に戻すと“rolling”です。これは確か教室の中では、「ローリング」と言っていたはずではないか、そう思ってなんど聞いてもやっぱり、「ローレン、ローレン」ですね。

それから、番組の最後はいつも主人公フェイバーさんの勇ましい掛け声「さー、行くぞ出発」で締めくくられて、あの主題歌が流れる。今でも思い出しますね。そしてそのあと現れるトリスおじさんのCMまでもが一体化していました。

さて「さー、行くぞ出発」は、もとの英語で何と言っているか。実は、“Head'em up! Move'em out!”と叫んでいます。このセリフは主題歌の中で何度もリフレインされていて、この映画の内容と、主題歌をつなぐ重要なフレーズとなっています。お暇なときにYouTubeでお聞きください。

ところでこの簡単なフレーズは、アメリカで暮らしたことの無い日本人には、相当の英語を使える人でもなかなか聞き取れません。フェイバーさんの叫んでいることをそのままカタカナで書きとると、「ヘーレマ、ムーヴェマウ」です。われわれが教室で習った日本的な正しい？発音に従うと、「ヘッドゼム アップ、ムーヴェゼム アウト」になるべきでしょう。でも普通の会話でそのようなぶつ切り発音は絶対に聞きません。

ここに日本の英語教育の一つの大きな壁というか、問題点が集約しているともいえるのです。

さて、Googleで米国のサイトを検索して原詩にもっとも近いと思われるものを再録しておきました。この歌詞をご覧になって、YouTubeで、フランキーレーンの歌をお聞きになって下さい。懐かしい思い出とともに、日本の英語教育のあるべき姿に思いをはせていただければ幸いです。(日本語サイトには、でたらめな歌詞や、怪しい翻訳が横行していますからくれぐれも信用なさらないようにお気を付け下さい)

Rollin', rollin', rollin'.

Rawhide!

Keep rollin', rollin', rollin',

Though the streams are swollen,

Keep them dogies rollin', rawhide.

Through rain and wind and weather,

Hell bent for leather,
Wishin' my gal was by my side.
All the things I'm missin',
Good vittles, love, and kissin',
Are waiting at the end of my ride.
Move 'em out, head 'em up,
Head 'em up, move 'em on.
Move 'em out, head 'em up:
Rawhide.

Cut 'em out, ride 'em in,
Ride 'em in, cut 'em out,
Cut 'em out, ride 'em in:
Rawhide!

Movin', movin', movin',
Though they're disapprovin',
Keep them dogies movin', rawhide.
Don't try to understand 'em,
Just rope an' throw an' brand 'em.
Soon we'll be living high and wide.
My heart's calculatin',
My true love will be waitin':
Waitin' at the end of my ride.

Move 'em out, head 'em up,
Head 'em up, move 'em on.
Move 'em out, head 'em up:
Rawhide.

Cut 'em out, ride 'em in,
Ride 'em in, cut 'em out,
Cut 'em out, ride 'em in:
Rawhide!

(Rollin', rollin', rollin'.)